

6 4 8 号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所 2023. 5. 10

富山きときと空港の国際線運航再開に伴う
「肉製品の持ち込み禁止広報キャンペーン」
が実施されました 1

高病原性鳥インフルエンザ R4-5 シーズン
の発生状況について (家さん編) 2

早めに暑熱対策を始めましょう(乳牛編) ... 3

高岡市 clover farm に新しい牛舎・堆肥舎
が完成 4

令和5年度市町村畜産担当者名簿 5

防疫情報..... 6

新規採用職員紹介 6

北陸三県和牛子牛市場の開催 6

富山きときと空港の国際線運航再開に伴う 「肉製品の持ち込み禁止広報キャンペーン」が実施されました



新型コロナウイルス感染症の影響で運休していた富山きときと空港の国際線の運航が、令和5年4月13日(木)から3年2か月ぶりに再開されることにあわせて、訪日した台湾からの旅客に対し、「肉製品の日本への持ち込み禁止」を広報するキャンペーンが、国際線到着ロビーにおいて農林水産省動物検疫所とともに富山県養豚組合連合会等の関係機関の協力により行われました。

アフリカ豚熱や口蹄疫等、容易に国境を越えて甚大な被害を与える越境性動物疾病の侵入防止のため、海外から肉や肉製品の持ち込みが禁止されています。新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年(平成31年)では、携帯品による輸入禁止品等の検疫実績は109,928件、69,124kgに及んでおり、訪日外国人に周知することで、これらの疾病の国内への侵入防止を実施してまいります。

(西部家保環境課 粕谷課長)

高病原性鳥インフルエンザ R4-5 シーズンの発生状況について(家きん編)

今シーズン、国内では4月20日現在、26道県で84事例の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生があり、99農場4施設で1,771万羽が殺処分の対象となる大規模な流行となりました。

ここまでは報道でも繰り返し伝えられているので承知されている方も多いと思いますが、もう少し詳しく状況を見てみたいと思います。

データは農林水産省が公表している発生状況と畜産統計を参照しています。

家きんでの発生を、特に採卵鶏農場に絞って集計してみました。

採卵鶏は今シーズン、68農場1,654万羽が殺処分対象になっていますが、ここから疫学関連農場を除くと発生農場は61戸、殺処分羽数は1,636万羽となっています。

この「採卵鶏農場での発生状況」の飼養規模との関連を調べてみました(表1)。

すると、10万羽以上を飼養する、いわゆる“大規模養鶏場”の合計では、今シーズン38戸で発生が確認されており、これは採卵鶏での発生事例数61の62%にあたります。殺処分羽数では1,540万羽が大規模農場での発生で殺処分されており、これは採卵鶏での殺処分羽数の実に94%にもなります。

我が国における10万羽以上のいわゆる“大規模養鶏場”は、全採卵鶏農家の20%の戸数で、その20%の大規模農場が日本の採卵鶏の約80%を飼養している、というのが我が国の飼養実態ですから、今シーズンのHPAIの発生が大規模農場に集中していたことが窺えます。

そこで、それぞれの飼養規模別の戸数と今シーズンの発生事例数の関係を調べてみました(表2)。

全体としてR4-5シーズンは、日本全国に1,634戸存在した養鶏農家のうち、3.7%にあたる61戸で発生した、という状況でした。

これを飼養規模別にみると、まず1万羽未満(1,000羽以上)の小規模養鶏農場は、畜産統計によると令和4年2月1日時点で国内に624戸存在しますが、今シーズン発生したのは1戸に過ぎません。

ところが、飼養規模が大きくなるにつれて「発生率」(発生戸数/国内の飼養戸数)が高くなり、10~50万羽規模の農場では、全国の農場戸数279戸中10%にあたる28戸で発生した、という驚くべき発生率となっています。

さらに50万羽以上を飼養する最大級規模の農場では、令和4年2月時点で全国に存在していた55戸のうち、実に10戸、発生率にして何と18%の農場で発生した、という戦慄する数字となっています。なお、令和2~3年のシーズンでも、今シーズンほど顕著ではありませんが、「飼養規模が大きな農場ほど発生率が高くなる」傾向は認められています。

統計的な分析も考察もここでは敢えてしませんが、「飼養規模が大きな農場ほど発生リスクが高かった」という傾向は数字的にははっきり認められます。大規模養鶏場でこれだけ集中的に発生したという事実は、今後の発生予防対策を考える上で、とても示唆的だと思われます。

次号では今シーズンの野鳥におけるHPAI発生状況についてお話しします。

次号では今シーズンの野鳥におけるHPAI発生状況についてお話しします。

次号では今シーズンの野鳥におけるHPAI発生状況についてお話しします。

(西部家保 池上所長)

表1. 採卵鶏農場での飼養規模別発生状況 その1

飼養羽数区分	発生戸数	殺処分羽数	構成比(戸数)	構成比(羽数)
1,000~1万羽	1	0.4	1.6%	0.02%
1~5万羽	14	42	23.0%	2.6%
5~10万羽	8	53	13.1%	3.3%
10~50万羽	28	591	45.9%	36.2%
50~100万羽	5	351	8.2%	21.5%
100万羽以上	5	597	8.2%	36.5%
計	61	1,636	100%	100%

* 羽数の単位は万羽

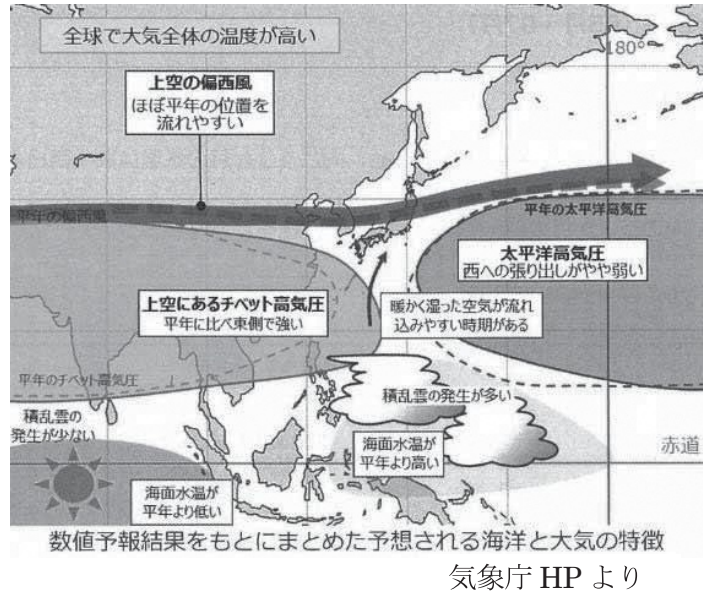
表2. 採卵鶏農場での飼養規模別発生状況 その2

飼養羽数区分	飼養戸数	発生戸数	発生率
1,000~1万羽	624	1	0.2%
1~5万羽	462	14	3.0%
5~10万羽	214	8	3.7%
10~50万羽	279	28	10.0%
50~100万羽	55	5	18.2%
100万羽以上	5	5	100%
計	1,634	61	3.7%

早めに暑熱対策を始めましょう（乳牛編）

気象庁が令和5年4月25日に発表した向こう3か月（5月から7月）の天候の見通しによりますと、平均気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みの見込みとなっています。

地球温暖化の影響により、大気全体の温度が高く、冬に終息したラニーニャ現象の影響が残るため、海面水温は西太平洋熱帯域で高いなどの影響により、日本付近は温かい空気に覆われる見込みとなっています。このため、5月はほぼ平年並みですが、特に6月は高く、7月は平年並みか高い見込みとなっています。



<乳牛の暑熱対策>

家畜は飼養環境の様々な外的要因の影響を受けています。この要因が大きく変化することは、生産性の低下に関わってきます。

牛の食欲は一般に寒冷下で増進し、暑熱下では抑制されますが、中でも乳牛は暑さに非常に弱い動物であり、気温が上昇し始めると食欲が著しく低下していきます（右表）。

表 気温と食欲の関係

気温	食欲
25～27℃	減退
30℃以上	劇的に抑制
40℃	通常の20～40%

暑熱期は胃運動が生理的に抑制されていますが、外見からでは判断が難しいです。しかし33の日が2週間も続けば、食欲が低下し、胃の収縮力は20の時と比べ約50%まで落ちます（獣医畜産新報）。当然のことながら、胃運動の低下が起これば牛の採食量は減り、飼料中に含まれるカルシウムやミネラル等の摂取量も減少します。搾乳牛にとってカルシウムの低下は致命的となることもあります。また、体温を一定以下に保つために呼吸数を増加させるパンティングによる熱の発散でもカルシウムやミネラルは失われていくため、必要に応じて給与飼料中に添加しましょう。牛が採食量を確保できないのであれば、良質で消化率の高い飼料を給与したり、粗飼料の切断長を短くしてみたりと少しでも採食できるように工夫してみてください。また、飲水量の確保も同じく重要です。冷水の給与や水槽の汚れに注意して、牛が飲みたくなるようにしましょう。

毎年のことですが、このように気温が高くなることはストレスになるだけでなく牛の体調にも影響してきますので、早めの暑熱対策をすることは重要です。

一般的にはグリーンカーテンや遮光ネットによる日陰づくり、牛舎の屋根・壁・床の断熱や、牛体への散水・送風・噴霧などが基本となってきます。様々なものが高騰する中で、新たに設置するというのは難しいかもしれませんが、送風機の角度を調整することや、送風機に付着しているホコリを取り除くだけでも風速の改善が見込めます。また、牛舎全体を冷却するためには屋根に園芸用灌水チューブなどで散水装置を設置するのも良いでしょう。

そのほか、飼育密度の緩和・毛刈りなど、一般的な飼養管理に目を配るだけでも生産性の低下を抑える効果があります。

まだまだ寒暖差のある季節ではありますが、本格的な夏を迎える前に今一度対策を見直してみましょう。

（西部家保防疫課 増永係長）

高岡市 clover farm に新しい牛舎・堆肥舎が完成

高岡市にある clover farm (代表：青沼 光さん) では、新しい牛舎と堆肥舎が完成し、令和 5 年 4 月 11 日に地域住民および関係者約 50 人が参加して完成見学会が開催されました。

新しい牛舎と堆肥舎は、畜産クラスター事業（畜産経営収益力強化整備等特別対策事業）を活用し、既存牛舎の隣に鉄骨造平屋建て延べ面積約 1,200㎡の搾乳牛 100 頭規模の乳牛舎が建設されました。

現在の搾乳牛 45 頭から今年度中に 100 頭まで増頭し、フリーバーン方式で飼育される予定です。

また、堆肥舎は鉄骨造平屋建てのもので、現在の約 3 倍の面積となり、より良質な堆肥を生産し、地域の農家と連携して牧草などの自給飼料を育てる循環型農業を進めていく予定です。

clover farm の青沼代表は、平成 27 年 3 月に牧場を引き継ぎ、ご夫妻で新規に酪農を開始され、既存牛舎を改築しながら酪農経営を続けてこられました。そして、今回の新牛舎完成により、既存牛舎から約 4 倍の規模の広さの牛舎で、さらなるチャレンジをスタートされます。

折しも酪農をめぐる情勢は、昨今のウクライナ危機や円高等から濃厚飼料など飼料価格の高騰により経営的に厳しい状況が続いておりますが、青沼代表は将来にわたり、酪農を続けていくにあたって、目指す経営規模に見合った牛舎と堆肥舎を設置することで経営の基盤を整えること、また、地域に開かれた牧場としていくために酪農を身近に感じられるように配慮した牛舎環境を整えていくことを決断されました。

今後の clover farm の取り組みに期待しております。

(西部家保環境課 粕谷課長)



完成した牛舎外観



地元住民等に説明



搾乳施設について説明

令和5年度市町村畜産担当者名簿

東部家保管内

市町村名	担当課	課長	係長	担当者	備考
富山市	農業水産課	谷井 隆彦	主幹 山口 拓志	係長 矢郷 徳宏	TEL 076-443-2083 FAX 076-443-2185
	農林事務所農業振興課 (大沢野行政サービスセンター)	余川 洋成	副主幹・振興係長 島田 豊	主幹 門田 真典	TEL 076-468-2449 FAX 076-467-0684
魚津市	農林水産課	清水 悟史	農産振興係長 三村 幸一	主任 寺崎 公人 事務職員 片山 和重	TEL 0765-23-1034 FAX 0765-23-1053
滑川市	農林課	石井 正広	課長補佐・農政農産係長 香川 由佳	主事 中川 祥太郎	TEL 076-475-2111 FAX 076-476-0249
黒部市	農業水産課	産業振興部次長 平野 孝英	農産普及係長 辻 清人	主事 佐々木 亮	TEL 0765-54-2603 FAX 0765-54-2607
	くろべ牧場まきばの風	場長 橋場 和博	係長 中山 助利	(同左)	TEL 0765-52-2604 FAX 0765-52-3925
舟橋村	生活環境課	田中 勝	課長補佐 前原 靖	技師 政二 勇太	TEL 076-464-1121 FAX 076-464-1066
上市町	産業課	酒井 紀明	課長代理 小柴 憲一	主任 村上 淳	TEL 076-472-1111 FAX 076-472-1115
立山町	農林課	佐伯 悦野	農政係長 中西 嘉尊	主任 間野 達	TEL 076-462-9973 FAX 076-463-1254
入善町	がんばる農政課	長島 努	課長代理 西島 和人	主事 今井 翼	TEL 0765-72-3812 FAX 0765-74-2108
朝日町	農林水産課	竹谷 俊範	主幹 平坂 昌美	主査 廣田 直人	TEL 0765-83-1100 FAX 0765-83-1109

西部家保管内

市町村名	担当課	課長	係長	担当者	備考
高岡市	農業水産課	永井 正之	農産・畜産・水産係長 碓 聡史	主任 下田 拓人	TEL 0766-20-1321 FAX 0766-20-1476
射水市	農林水産課	村中 一也	係長 村下 哲也	主任 橋詰 諒	TEL 0766-51-6677 FAX 0766-51-6692
氷見市	農林畜産課	赤倉 哲郎	課長補佐 山下 弥奈江	主事 菊田 慶	TEL 0766-74-8086 FAX 0766-74-1447
砺波市	農業振興課	栄前田 龍平	農産係長 前田 利数	主査 福島 靖明	TEL 0763-33-1409 FAX 0763-33-1129
南砺市	農政課	前山 浩	主幹・農産振興係長 横井 勇昭	主任 池田 祐悟	TEL 0763-23-2016 FAX 0763-52-6348
小矢部市	農林課	吉田 和隆	課長補佐 上田 慎一	主事 細川 颯大	TEL 0766-53-5849 FAX 0766-67-5009
	稲葉山牧野	場長 脊戸 栄	場長補佐 上田 政勝	主任 田中 崇樹	TEL 0766-67-2607 FAX 0766-67-5313

防疫情報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（4月26日現在）

事例	発生日	発生場所	経営形態	飼養羽数	血清型
84	4月7日	北海道千歳市	採卵鶏	約31万羽	H5N1

県内における野生いのししの豚熱 PCR 陽性事例（令和5年4月以降）

（4月26日現在）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	4月13日	氷見市日名田地内	成獣	雄
2	捕獲	4月13日	氷見市日名田地内	成獣	雌

【参考】令和元年7月30日以降の検査結果

（単位：頭）

区分	陽性	陰性	計
死亡いのしし	23	3	26
捕獲いのしし	66	1,472	1,538
合計	89	1,475	1,564

県内の主な家畜伝染性疾患の発生

病名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
豚丹毒（届出伝染病）	豚	3月31日	1	1	と畜場発見
		4月13日	1	2	
		4月14日	1	1	

☆ 新規採用職員紹介 ☆

《古林 梨紗（こばやし りさ） 東部家畜保健衛生所 防疫課獣医師》

出身地 富山県（小矢部市）

出身校 北里大学（獣医微生物学研究室）

趣味 読書、ウォーキング

＜本人からのメッセージ＞

大学の研究室では牛RSウイルスと常在細菌の混合感染について学びました。防疫課では現場で学び、現場に返せるよう努めてまいります。獣医師としてまだまだ未熟ですが、富山県の畜産業の発展に貢献できるよう努めます。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



北陸三県和牛子牛市場の開催

4月27日、金沢市の北陸三県家畜市場において、令和5年度第1回の北陸三県和牛子牛市場が開催されました。今回は全体で去勢118頭、雌83頭の計201頭の取引が成立し、富山県からの出品牛は去勢33頭、雌27頭の計60頭の取引が成立しました。全体の取引頭数は、前回比59頭の増加となりました。平均価格は、去勢で588千円（2月市場606千円）、雌で494千円（同484千円）、全体では549千円（同559千円）でした。また、最高価格は去勢で760千円、雌が700千円でした。

次の開催は令和5年6月22日です。

（西部家保環境課 米澤主任）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6
編集者 粕谷 健一郎（富山県西部家畜保健衛生所）

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/index.html
電話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140